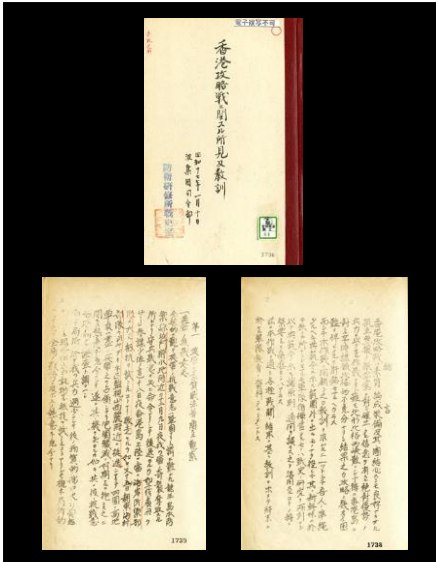


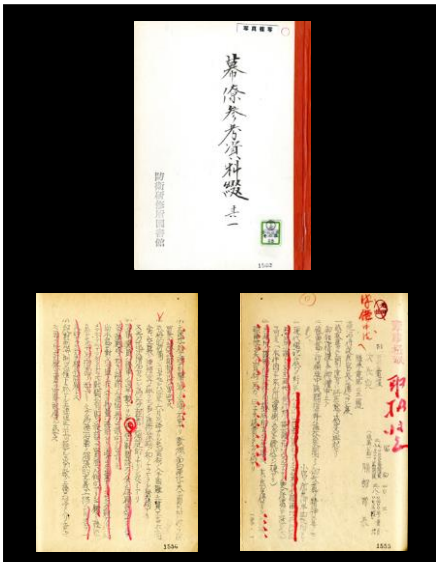
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 栗林 忠道 1891～1945年 》  
—長野県出身の陸軍大将—



**香港攻略作戦に関する所見及教訓**（登録番号：支那-支那事変南支-64）

栗林忠道大将は、大正3年5月、陸軍士官学校（26期）を卒業後、アメリカ、カナダの公使館附武官として勤務、その後は第2騎兵旅団長、第1騎兵旅団長などの要職を務め、開戦直前の昭和16年9月16日には、香港攻略を任務とする第23軍参謀長に就任します。そして12月8日、第23軍は香港対岸の九竜半島を攻撃、わずか4日で攻略したのち香港島に上陸、12月25日夕刻、英軍は降伏して香港攻略作戦は終わりました。この史料は、作戦直後の昭和17年1月10日、第23軍司令部が作成した「香港攻略戦ニ関スル所見及教訓」で、その「緒言」において、「軍隊指揮官タルモノハ戦史ノ研究ヲ深刻ニシ以テ典範令ノ示ス諸原則ノ適用ヲ誤ラス之ヲ活用スルコトノ特ニ緊要ナルヲ痛感セン」と記しています。



**幕僚参考資料綴**（登録番号：中央-作戦指導その他-48）

昭和19年5月27日、小笠原方面の防衛を担当する第109師団長に親補された栗林中将は、6月8日、硫黄島に着任します。そして昭和20年2月19日の米軍上陸から日本軍が玉砕した3月26日までの36日間、熾烈な戦闘を繰り広げます。この史料は「幕僚参考資料綴」で、3月7日夜、栗林中将が秦彦三郎参謀次長及び蓮沼蕃侍従武官長（陸大学生時の兵站教官）宛てに発した電報「膽参電第三五一号」が綴られています。電報には、「防衛上最モ困難ナリシハ全島殆ト平坦ニシテ地形上ノ拠点ナク且飛行場ノ位置設備力敵ノ前進楔入ヲ容易ナラシメタルコト」、「更ニ致命的ナリシハ彼我物量ノ差余リニモ懸隔シアリシコトニシテ結局戦術モ対策モ施ス余地ナカリシコト」と記されています。硫黄島の戦いは、日本軍の死傷者数を上回る損耗を米軍に与えて終わりました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175（史料紹介コーナーのみ29651）

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>